

「もん、しつけん、したが、かく
「文は、執見しつけんに随したがって隠れ、
義は、機根きこんを逐おって現あらわる。」

『弁頭密二教論』

「ものの価値は、受け取る者の力量に
依って左右される。」と言う意味ですが、
物のみならず、命も同じように考えられ
ます。

生まれを嘆き、育ちを恨み、現状を悔
やんでいては、何事をも上手くはいきま
せんし、反って物事が低く浅く見えるば
かりです。

あげくに、自分をもつまらない存在に
感じられ、生きていく意味すら喪失して
いきます。

でも、世間がつまらないのは、人のせ
いでは有りません。自分の考え方次第で

す。

一族を滅ぼされたお釈迦さまは、ご入
定の最後の遊行の中、この世の総てを肯
定し、弟子に後を託されました。

それは、ご自身の人生の成就をご自分
で決めて行かれたことに他なりません。

お大師さまも、大陸より時機早々と帰
国され、命懸けで密教を伝えられました。

その際、その後のご自身の助命などお考
えには無かったことと思います。

それぞれが出来ることに邁進しましよ
う。それが次の世代を育てる糧と成って
いきます。

「身みを棄すてて何いづくん処もとか求めん」

平成二十五年五月

川上修詮記